

## 知床五湖ヒグマ等事故リスク対応マニュアル(序文・目次)

### はじめに

本マニュアルは、知床五湖登録引率者(以下、登録引率者)が備えるべきヒグマ等のリスクに関する知識・情報をまとめ、事故発生時および発生後の対処を整理することを目的として作成したものです。当然、ヒグマ等の事故対策において最も重要なことは事前の「予防」と「回避」であることは論を待ちません。登録引率者は、利用者に対し最大限の安全を確保する責務があります。そのためにも、「事故の現実」について知り、安全を第一とした引率の心得と技術を獲得する必要があります。想定されるリスクに対する理解を深め、事故時の具体的な対処についてあらかじめ準備をすることは、事故防止の観点からも極めて重要であるといえます。

また、ヒグマ活動期における安全確保と適正な利用の推進は、登録引率者のみによって実現するものではありません。各行政機関や指定認定機関、諸施設の管理者等それぞれが役割と責務を分担し、協働することがその前提であり、事故時の対処についても例外ではありません。本マニュアルでは、こうした前提を踏まえつつ制度全体の中における登録引率者の位置づけと役割を整理することも目的としています。

本マニュアルは全 5 章で構成されます。第 1 章では、利用調整地区を基盤としたヒグマ活動期の運営体制を俯瞰し、事故対策の基本的な考え方と登録引率者の役割について解説します。第 2 章では、引率型の野外活動における事故事例を紹介し、事故時に発生した引率者の責任を検討する中で、想定されるリスクに対する理解と対処のありかたについて解説し、続く第 3 章において知床五湖の具体的な事故リスクについて検討し、安全管理のあり方を解説します。第 4 章は、本マニュアルの中心部です。知床五湖ヒグマ活動期における事故時の対処法についてまとめます。対処法は、発生から一次救護に至るまでの「初動編」とそれ以降の「事後対応編」からなります。一方、本マニュアルは、事故対処についての大枠を示したに過ぎません。引率者各位が自らの組織や環境に即したオリジナルのマニュアルを作成し、日常的に参照できる内容とすることでその有用性が担保されます。このような観点から、終章の第 5 章においては、引率者が事前に準備、立案すべき危機管理計画の作成手順と様式についてまとめています。

利用調整地区という法的な制度を背景としながら、いわば地域全体が適正な利用と安全確保に関心を持ち、主体的に関わる仕組みは、他の観光地や国立公園においても稀有な事例であるといえます。その中でも、利用者と直接向き合い、安全と感動を提供する登録引率者は、制度の運用において欠くことのできない役割です。本マニュアルが、制度の「顔役」ともいえる登録引率者の技量向上と研鑽に資することを祈念します。

## 目次

1 章	利用調整地区制度と登録引率者の役割	1
1.	利用調整地区制度とヒグマ活動期の運用	1
2.	ヒグマ活動期のリスク対策と課題	3
3.	登録引率者の役割	6
2 章	引率型野外活動における事故事例	7
1.	山岳遭難事故	7
2.	ダイビングによる事故	9
3.	ボランティア等無償の引率時の事故事例	10
4.	国の責任が問われた事例	11
3 章	登録引率者の安全管理	13
1.	リスク対処の基本的な考え方	13
2.	リスクアセスメント	14
4 章	事故対応マニュアル	18
1.	初動対応について	18
2.	初動対応マニュアル	20
3.	事後対応について	23
4.	事後対応マニュアル	23
5.	危機管理広報と説明責任	25
5 章	事前の準備と危機管理計画の作成	26
1.	リスクアセスメント実施様式	26
2.	初動対応チェックリスト（引率者用）	26
3.	初動対応チェックリスト（現地本部用・事業所事務所用）	26
4.	緊急連絡先一覧	26
5.	事後対応の心得	26

## 資料編

1.	登録引率者との意見交換会結果（第1回）	28
2.	登録引率者との意見交換会結果（第2回）	30
3.	有識者への聞き取り調査結果（1回目）	33
4.	有識者への聞き取り調査結果（2回目）	37
参考文献		38
1.	図書等	38
2.	論文・報告書等	39
業務概要		40